

第76回関東甲信越静学校保健大会参加報告

千葉県学校薬剤師会
常任委員 杉谷宏枝

令和7年8月7日(木)、TKP ガーデンシティ千葉において第76回関東甲信越静学校保健大会が開催されましたので報告いたします。

幼児・児童・生徒の心と体の健全な発育・発達を目指し、健康教育の当面する課題について研究協議し、その具体的な方策を究明するとともに、健康教育の充実と発展に資することが目的です。「豊かな心と健やかな体を育むウェルビーイングの向上を目指して」を主題とし、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉県学校保健会、公益財団法人日本学校保健会主催で各学校の関係職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、教育委員会・学校保健会職員、健康教育関係者等が約800名参加され、会場は満席でした。

特別講演は「車いすになってよかった」と題し、SMBC グリーンサービス株式会社 東日本人事部 東京2020パラリンピック、パリ2024パラリンピック銅メダリスト 村山 浩氏の講演でした。1974年千葉市生まれで、やり投げや野球を得意とする健康体でしたが、34歳の時にギランバレー症候群を突如発症し、回復入院を繰り返し、慢性炎症性脱髄性多発性神経炎(CIDP)になりました。起立や歩行はできず車いすでの生活となりました。発病後、車いすバドミントンを始め2015年より日本パラバドミントン連盟強化指定選手となり、重度車いすクラスで日本人初優勝、東京2020パラリンピック、パリ2024パラリンピックのダブルスで銅メダルに輝きました。その後現役引退し、現在は千葉市内で「パシフィック車いすバドミントンクラブ」を運営しています。パラリンピックの創始者ルードウィヒ・グッドマンの名言「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」に心を動かされ、今では車いすになって良かったと思えるようになりました。なぜならば、①新しい目

標ができた②新たな仲間たちができた③新たな経験ができた④自分の世界が広がったと話されました。また、東京とパリで獲得した2つの銅メダルを披露してくださいました。

午後からは班別研究協議会が行われ、第5班〔学校環境衛生と安全教育〕「快適な学校環境づくりと実践力を高めるための安全教育」に参加しました。埼玉県立蕨高等学校 養護教諭 工藤由未氏が「安全で快適な学習環境づくりの推進—学校環境衛生活動の充実を目指して—」と提案されました。文武両道の進学校である蕨高等学校では、感染症対策の換気において、保健委員がCO₂チェッカーを活用した換気励行を一定期間、休み時間ごとに行いました。また「教室のCO₂濃度を常に1,500ppm以下に」という文言を入れることを規定としたポスター作成を行いました。感染症の発生状況の把握はGoogle スプレッドシートを活用し、管理職と養護教諭で発生状況を共有しました。関係者との連携も大切であり、学校薬剤師には学校保健計画の立案や、学校環境衛生検査実施の他、日常点検結果についても指導助言を受けており、些細なことでも気軽に相談できる心強い存在であると話されました。

7年前の着任時には進学校のため保健委員会の活動時間がほとんど取れませんでした。コロナ禍を機に活動が大きくなりそれ以降も継続しています。生徒の中にもやる気のある生徒、リーダーになる生徒が中心となりコミュニケーションがとれました。今後も適切な環境づくりに主体的に取り組む生徒の育成を図っていきたくと締めくくられました。

指導助言者の千葉県学校薬剤師会 畑中範子会長からは、平成21年学校保健安全法の説明がなされました。学校薬剤師の行う空気環境検査において、換気扇のファンの汚れや換気扇の前のカーテン

に注意するなどの助言、CO₂ モニターの校正について、学校薬剤師の職務について紹介されました。また令和 8 年度の環境衛生基準の変更点、揮発性有機化合物の検査でエチルベンゼンが 3,800 → 370 μ g/m³ (0.085ppm)、学校の井戸水の検査に PFOS, PFOA が加わることなど新しい情報をいただきました。

後半は長野県伊那市立手良小学校 養護教諭 穴澤 由香里氏が「自分の命を守るための行動ができる子どもを育てる～チームで行う教育実践～」と題して提案されました。防災教育についても自ら判断する力や意識の継続について課題が見つかりました。「自分の命を守るための行動」ができるようになるために、単発的な避難訓練や保健教育だけでは意識の継続は難しいため教科学習やクラスの活動に結びつけました。社会科では自助・共助・公助について学ぶ中、防災については、公助だけでなく自助・共助がとても大切であるという意見が多く出ました。児童が校内を歩き回り、危険だと思われる学校危険箇所マップを作成しました。例えば、理科室のイスは机の上に置くと落ちてきそうで危ないという意見が出たため理科室を含む特別教室のイスは常時、下におろすよう決まりを変更しました。また、廊下の壁に掛けてある賞状の額が落ちたら危ないという意見から額を撤去し、賞状はデジタル保管としました。避難訓練の見直しを行い、火災避難訓練では校内の緊急避難場所をなくし、教師の指示を待たずに児童が自分で判断して校庭の避難場所に逃げる方法に変更しました。

指導助言者の千葉科学大学 藤本一雄学長から、「子供は大人が手を出しすぎるとやらなくなる。楽しいことが継続につながる。そのためには楽しい要素や遊びの要素を入れること必要。特別な配慮が必要な生徒への対策、パニックになった時の対応も訓練の一つである。トラブルを入れる訓練から新しい課題が見えてくる。今回海なし県の子供ということで、津波を想定した訓練がなされていないが大人になった時を考え地域の実情に応じた訓練が必要ではないか。」との指導がありました。

第 1 班は学校保健、第 2 班は薬物乱用防止教育などの健康教育、第 3 班は性やがん教育、第 4 班は歯科保健についての提言でした。

近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、子ども達の心身の健康に大きな影響を与えられ、液晶端末の普及による近視の進行や睡眠障害、デジタル依存症、オーバードーズ、感染症等が挙げられます。これらの課題解決のためには、学校保健・学校安全に取り組む組織体制の整備とともに、学校薬剤師として学校・家庭・地域が一体となり、豊かな心と健やかな体を育むウェルビーイングの向上を目指すことはとても意義深いことであると思いました。